

ユニークな
地質系博物館
(9)

富山市科学文化センター

赤羽 久 忠¹⁾

地方都市にはめずらしく、充実した科学博物館が富山市にある。国道41号線を富山駅から南へ高山方向に向かって約2キロメートル、国道左側沿いの城南公園にある「富山市科学文化センター」がそれである(写真1)。

その名からいわれる「文化センター」かと思いきや、れっきとした科学博物館で、各専門分野の学芸員の資料収集・調査研究をふまえた活動を行っている。展示は、自然史展示室のほかに理工展示室・特別展示室・プラネタリウム投映室がある。

地質関係では、エントランスホールの復元模型に圧倒される。真っ先に目につくのは体長6mもある巨大なナウマンゾウの等身大模型(写真2)。これは、他のどこの博物館のものよりも立派で、目が外光を反射して光り、今にもパオー!! と泣きそうな臨場感がある。

同じホールには、新しい学術研究の成果を盛り込んだ世界でもただ一つしかないデスモスチルスの等身大復元模型(写真3)と化石巨大サメの顎の骨格復元(写真4)がある。

デスモスチルスは、東大の犬塚則久氏の最新の研

究成果を盛り込んだもので、従来の復元と大きく異なっていて、まるでワニが歩いているようなポーズをしている。

化石巨大サメは、鶴見大学の後藤仁敏氏の指導によるもので、国内第1号である。口の中から顔を出して「ハイ・ポーズ!」。その大きさには映画「ジョーズ」をはるかに凌ぐ迫力がある。

2階の自然史展示室は、平成4年3月に全面的に展示替えを行った。

入口に動く恐竜「富山のアロ君」がお出迎えする

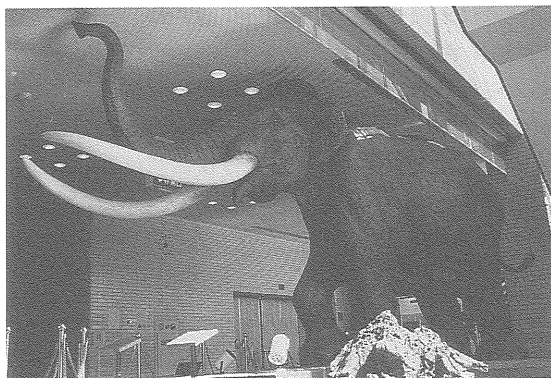


写真2 リアルなナウマンゾウ等身大模型



写真1 国道41号線から見た富山市科学文化センター
富山市の城南公園の一角にある。



写真3 犬塚復元によるデスモスチルス
まるでワニのようなポーズ。

1) 富山市科学文化センター専門学芸員：〒939 富山県富山市
西中野町1-8-31

キーワード：富山市科学文化センター、地質系博物館、自然史、
恐竜、環境。

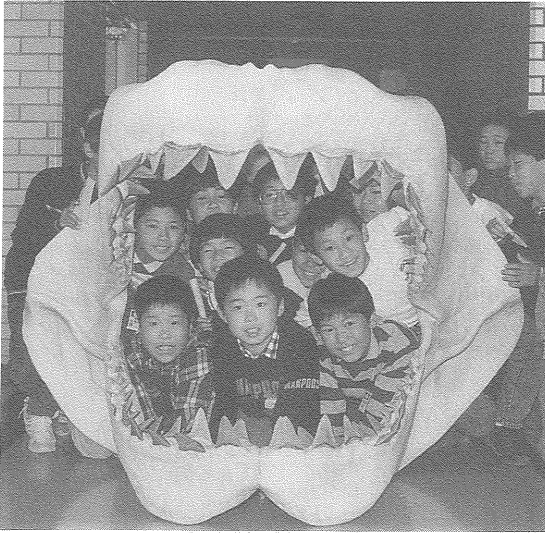


写真4 化石巨大サメの口の中で記念撮影!!

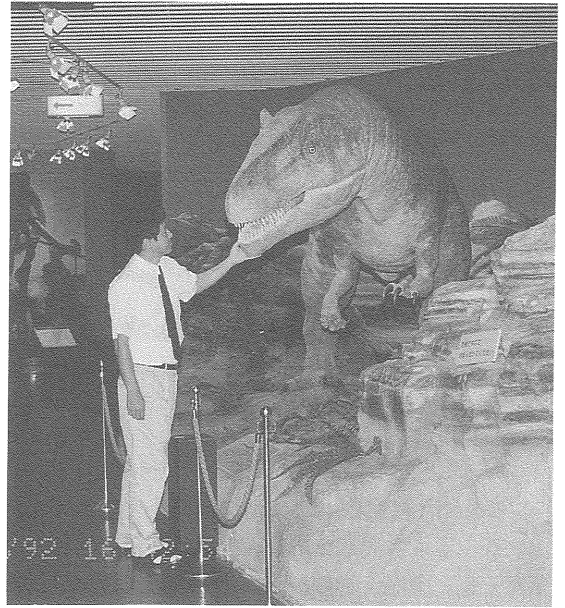


写真5 富山のアロ君、やさしくつき合ってください。

(写真5). アロ君は、入館者の動きに対応して2種類の動きをする。ひとつは、展示室に入ってきた入館者を確認すると威嚇するもので、もうひとつは、さらに近づいて「富山のアロ君!!」と呼びかけてセンサーに触れると、いわゆる「親愛の情」を現して顔を近づけてくる。始めはびっくりしていても、最後には恐竜と友達になってしまう。本当に「恐竜の世界」へ来たような雰囲気があり、手を伸ばせば触れることもできる。

この展示室の一つの大きな特徴は、展示物と入館者の通路との境界を取り除いた点である。だから、その気になれば恐竜のいる原っぱに入っていくこともできるが、そこは良識をわきまえて紳士的でありたいものだ。担当者の後藤道治学芸員によれば、「オープンにしておいて節度を守っていただく」。これも社会教育だとか…。

このほか、豊富な八尾層群の資料にもとづいて亜熱帯であった中新世の復元や、昭和55年に富山湾から見つかри、海面変動の証拠として話題になった

世界最古の埋没林(海底林)の展示、立山連峰に発達した氷河の復元図など、北陸の地質についての展示は見逃すわけにはいかない。

場所：〒939富山県富山市西中野町1-8-31

富山市科学文化センター

TEL 0764-91-2123(代)

FAX 0764-21-5950

営業時間：9:00-16:30

休館日：月曜日・国民の祝日(ただし子供の日と文化の日は開館)・年末年始

入場料：大人310円、子供150円

AKAHANE Hisatada (1992): Toyama Science Museum,
Toyama Prefecture.

〈受付：1992年11月9日〉